今日の説教のポイント　<使徒言行録 17 章 10～15 節>

①聖書の信仰は「鰯の頭も信心から」とは違う！

　この個所で注目すべきは、**「ここのユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。そこで、そのうちの多くの人が信じ」**(11-12)、と言われていることです。「鰯の頭も信心から」という諺がありますが、聖書が求める信仰は、とにかく何でもいいからまず信じることが大事、といったものではないのです。そんなものなら、私も信じません。ここで言われているように、「よく調べ、その結果、理にかなっていたら信じる」ものなのです。**「素直で」「非常に熱心に御言葉を受け入れる」、**とはそういう意味なのです。

　ここで大事な点は、調べるのは聖書であるということです。聖書が言っていることが理に適っているか、辻褄が合うかです。そして、本気で聖書に向かうなら、理に適っていることが分かるはずです。聖書の神様に出会うためには、他のどこかではなく、そのために神様が用意して下さった所、聖書の中に探し求めなければならないからです。

②点ではなく、続いて行く線で人生を考える　―　聖書の人生観！

　パウロはこの町ベレアでも迫害を受け、つくづく、どこへ行っても苦労続きだなと思います。神様はパウロを召されたときに、**「私の名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、彼に示そう」**（9：16）と言われましたが、その通りになったわけです。神様はむごいお方でしょうか？そうではありません。パウロは宣教に伴う苦しみと同時、主を信じて生きるようになった人々と喜びを共にする経験も沢山できたのです。私たちも、人生における受苦は神様の不在を示すものではなく、必ずその苦しみを上回る喜びが用意されていると信じて歩む者でありたいものです。

　また、このベレアからの追い立てによってアテネ伝道が生まれたことも考えておかねばなりません。私たちは聖書を読む中で、「悲しい出来事は悲しみで終わりではないこと」「点ではなく、続いて行く線で人生を考えること」を教えられます。神様は、確かに、聖書を真剣に読むことの中に多くの恵みを込めて下さったのです！